

第14回目の研修テーマは、「普通、常識、当たり前を考える」です。

「普通分かるでしょ。」「常識で考えなさい。」「出来て当たり前です。」

これらの言葉は、子どもに対して改善を求める際に使われる言葉です。皆さんも耳にしたことがある言葉だと思います。しかし、改善を求めている割には、「普通」「常識」「当たり前」というワードが並んでいるだけで、何一つ具体的な指示や改善方法はないのです。それでも多くの子どもは改善に向けて行動することが出来るのです。つまり、「普通」「常識」「当たり前」というワードだけで、自分の失敗の理由を探り、改善点を見つけ出し、修正を図り、次は失敗しないように準備することが瞬時に出来ているのです。

発達障がいを持つ子どもにとってはどうでしょうか？ 察することが苦手で曖昧な指示から相手の要求していることが理解できない子どもにとっては、とてつもなく難易度の高い行動になります。この問題を解決するためには、できない子どもの責任にするのではなく、指示や要求を出す大人側が「普通」「常識」「当たり前」の名の元に子どもに何を求めているのか、それに合わせて子どもは何を身に付けないといけないのかを具体的に理解する必要があります。

そこで今回の研修では、「普通」「常識」「当たり前」の裏に隠れている具体的に理解すべき7つのスキルについて学んでいきました。また、研修の後半にはスタッフの皆さんそれぞれが思う「普通」「普通じゃない」の意見を出し合ってグループで話し合っていました。

例えば、30分歩く→普通？普通じゃない？ 早起き→普通？普通じゃない？
体重維持→普通？普通じゃない？ 初対面の人とのおしゃべり
→普通？普通じゃない？

子どもだけでなく大人側も完璧ではありません。それぞれに得意不得意があります。我々支援者が頭ごなしに決めつけるのではなく、子どもの立場に立った視点を忘れずに持つことが発達障がいを持つ子どもへの効果的な支援に繋がると確信しています。

